

平成28年度 教育庁運営プログラム

<短期アクションプランの目標指標>	<やまがた創生総合戦略のKPI>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級への少人数学級編制の導入：平成25年度導入 (平成25年度：導入完了)</li> <li>・知的障がい特別支援学校未設置地域への特別支援教育機能の整備：平成27年度までに整備 (平成26年度：整備完了)</li> <li>・高校生のうちボランティア活動に参加した生徒の割合：100% (平成27年度：83.4%)</li> <li>・新規高卒者の県内就職内定率：100% (平成28年3月末：99.4%)</li> <li>・子どもの朝食欠食率：小6 3.9%、中3 5.4% (平成26年度：小6・9.2%、中3・12.5%)</li> <li>・地域活動に取り組む青年グループの数：35市町村70グループ (平成27年度：33市町村82グループ)</li> <li>・最上川の保全・活用に向けた「山形の宝『最上川文化遺産(仮称)』」制度の創設 (平成25年度：「未来に伝える山形の宝」登録制度創設)</li> <li>・国民体育大会天皇杯順位：20位台 (平成27年度：36位)</li> <li>・地域の伝統文化の伝承活動をする団体数：300団体 (平成27年度：289団体)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英検準2級から2級程度以上の高校生の割合：50% (平成27年度：38.1%)</li> <li>・医学部医学科、難関大学の合格者数：200人 (平成27年度：107人)</li> <li>・地域の伝統・文化行事に参加している児童生徒の割合 小6 90.0% (平成27年度：84.9%) 中3 70.0% (平成27年度：60.3%)</li> <li>・総合型地域スポーツクラブの会員数：増加させる (平成27年度：21,834人)</li> <li>・地域活動に取り組む青年グループの数：70グループ (平成27年度：33市町村82グループ)</li> </ul>

1 基本的考え方

平成28年度は、昨年度策定した第6次山形県教育振興計画（平成27年度～平成31年度）及びやまがた創生総合戦略に掲げている各施策を着実に実行していく。

2 施策体系（施策名称及び目標等一覧）

施策番号	重点施策の名称	主な取り組み内容	重点施策の目標	短期APにおける位置付け
				総合戦略における位置づけ
1	「いのち」を大切にし、生命をつなぐ教育を推進する	<b>【「いのちの教育」の推進】</b> ・幼児期から高等学校までの発達段階に応じた生命の大切さを学ぶ教育プログラムの実践	○「自分には良いところがある」と思う児童・生徒の割合（全国学力・学習状況調査から） ・小6：82%（H27：79.2%） ・中3：75%（H27：72.2%）	テーマ1－施策2－主要事業（2）－ ①「自他の生命や存在を尊重できる教育の充実」 テーマ1－施策2－主要事業（2）－ ②「豊かな心と健やかな体の育成」

		<p><b>【思いやりの心と規範意識の醸成】</b>  ※チーム学校による相談・学習指導体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの新たな課題に対応する市町村の取組み支援</li> <li>・家庭環境等の問題に対応するスクールソーシャルワーカーの派遣</li> </ul> <p><b>【生命を次代につなぐ意識啓発事業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形での生活や子育て等を学ぶシンポジウムの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査から） <ul style="list-style-type: none"> <li>・小6：90%（H27：87.6%）</li> <li>・中3：77%（H27：72.9%）</li> </ul> </li> <li>○不登校児童生徒の割合（県独自調査）：0.88%（H26：0.97%）H27:H28.10月確定予定</li> <li>○いじめの認知件数に占める、いじめが解消しているものの割合（公立小・中・県立高・特支）：95%（H27：91.2%）</li> </ul>	<p>テーマ2－施策1－主要事業（2）－④「こころの健康づくりの推進」</p> <p>テーマ1－施策2－主要事業（4）－②「社会全体で子どもを育てる気運の醸成」</p> <p>テーマ1－施策2－主要事業（1）－①「多様性を活かし可能性を引き出す教育の推進」</p> <p>テーマ1－施策2－主要事業（1）－②「教育を取り巻く課題に対応できる教員の養成」</p>
2	豊かな心と健やかな体を育成する	<p><b>【教育の原点である家庭教育、幼児教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親等に学習機会を提供するやまがた子育て講座等の実施</li> <li>・幼児期の親子に対する幼児共育ふれあい広場の実施</li> </ul> <p><b>【豊かな心の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第3次山形県子ども読書活動推進計画の策定</li> <li>・山形県と福島県の小・中学生の体験・交流活動の実施</li> </ul> <p><b>【健やかな体の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中・高校への専門家派遣による食に関する指導助言</li> <li>・体育授業や運動部活動への外部指導者の派遣</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭教育講座等を実施している市町村数：35市町村（H27：32市町村）</li> <li>○幼稚園・保育所等と教員同士の交流を実施する小学校の割合：80%（H27:79.2%）</li> <li>○毎日朝食を摂っている児童生徒の割合：小・中 それぞれ増加させる（H27小6：91.0%、H27中3：87.5%）</li> <li>○新体力テストで、「50m走」「ボール投げ」を重点項目として、全国平均より劣る項目数：小・中・高 合計26項目以下（H27：29項目）</li> <li>○運動をしない児童生徒の割合：小・中・高 10%以下（H27：11.3%）</li> </ul>	<p>テーマ1－施策2－主要事業（4）－①「家庭や地域の教育力の向上」</p> <p>テーマ1－施策2－主要事業（4）－②「社会全体で子どもを育てる気運の醸成」</p> <p>テーマ1－施策2－主要事業（2）－②「豊かな心と健やかな体の育成」</p> <p>テーマ1－施策2－主要事業（3）－①「主体的に学び課題を解決する力」</p> <p>テーマ1－施策2－主要事業（4）－③「食育県民運動の展開強化」</p> <p>テーマ2－施策1－主要事業（2）－②「望ましい食生活の定着に向けた取組みの強化」</p>
3	社会を生きぬく基盤となる確かな学力を育成する	<p><b>【個々の能力を最大限に伸ばすための環境整備と確かな学力の育成】</b>  &lt;小・中学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校、特別支援学級での少人数学級編制の実施</li> <li>・教育マイスターの配置・OJT研修</li> <li>・推進協力校での探究型学習の実践研究・普及</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全国学力・学習状況調査における正答率が、全国平均以上の科目数 <ul style="list-style-type: none"> <li>・小6：全科目</li> <li>・中3：全科目</li> </ul> （H27：小中合わせて5/10科目）</li> </ul>	<p>テーマ1－施策2－主要事業（1）－①「多様性を活かし可能性を引き出す教育の推進」</p> <p>-----  <b>基本目標1－（4）－①</b>  <b>世界で通用する高い専門性や知識を有した人材を育成・確保</b></p> <p>テーマ1－施策2－主要事業（3）－①「主体的に学び課題を解決する力の育成」</p>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>山形県学力等調査の県内全小・中学校での実施 ＜高等学校＞</li> <li>科学・英語を中心とした探究活動の実施・普及</li> <li>医進塾、地元大学進学促進セミナーの実施</li> <li>難関大・医進セミナーの実施</li> <li>基礎学力テスト(仮称)試行・授業改善</li> </ul>	<p>○医学部医学科、難関大学の合格者数：160人 (H28.3：107人)〔創〕</p>	<p>基本目標1－(4)－① 世界で通用する高い専門性や知識を有した人材を育成・確保</p> <p>テーマ2－施策1－主要事業(1)－①「医療従事者の確保・定着に向けた取組みの強化」</p> <p>-----</p> <p>基本目標1－(4)－② 県内産業が求める人材を育成・確保</p> <p>テーマ3－施策5－主要事業(1)－②「産業の発展を支える人材の育成の確保」</p> <p>-----</p> <p>基本目標1－(4)－② 県内産業が求める人材を育成・確保</p> <p>-----</p> <p>テーマ1－施策2－主要事業(1)－②「教育を取り巻く課題に対応できる教員の育成」</p>
4	変化に対応し、社会で自立できる力を育成する	<p><b>【変化に対応する実践的な力の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校での外部人材を活用した英語の授業の実施</li> <li>小中高大連携による系統性のある英語教育の充実強化 英語教育強化拠点地域：鶴岡市</li> <li>タブレットPC等のICT教育環境整備の強化</li> <li>就学支援金・奨学のための給付金の支給学年の拡大</li> </ul> <p><b>【社会的自立に向けた勤労観・職業観の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高校生のインターンシップ(短期、中長期)の実施</li> <li>普通科高等学校での大学と連携したキャリア教育の実施</li> <li>高等学校での産業教育振興設備の計画的な更新</li> </ul>	<p>○英検3級以上程度の英語力のある中学生の割合：43% (H27：29.4%)</p> <p>○英検準2級から2級程度以上の英語力のある高校生の割合：43% (H27.12：38.1%)〔創〕</p> <p>○県内就職を希望している高校生の県内就職内定率：100% (H28.3:99.4%)</p> <p>○高校生の県内就職率 (県内就職内定者数／全就職内定者数)：80% (H28.3:77.4%)</p>	<p>テーマ1－施策2－主要事業(3)－②「職業観、勤労観の育成」</p> <p>-----</p> <p>基本目標1－(4)－② 県内産業が求める人材を育成・確保</p> <p>-----</p> <p>テーマ1－施策2－主要事業(3)－③「時代にふさわしい能力を身につける教育の充実」</p> <p>-----</p> <p>基本目標1－(4)－① 世界で通用する高い専門性や知識を有した人材を育成・確保</p> <p>-----</p> <p>テーマ1－施策3－主要事業(2)－①「就業意欲・能力の向上と機会の確保」</p> <p>-----</p> <p>テーマ3－施策1－主要事業(2)－⑤「本県の将来を担う人材の育成と研究者の研究意欲の向上」</p> <p>-----</p> <p>基本目標1－(4)－② 県内産業が求める人材を育成・確保</p>

				<p>テーマ3－施策5－主要事業（1）－②「産業の発展を支える人材の育成の確保」</p> <p>-----</p> <p><b>基本目標1－（4）－②</b> <b>県内産業が求める人材を育成・確保</b></p> <p>テーマ1－施策1－主要事業（3）－⑤「子育て家庭等に対する経済的支援の充実」</p> <p>テーマ1－施策2－主要事業（4）－①「家庭や地域の教育力の向上」</p>
5	特別なニーズに対応した教育を推進する	<p><b>【特別支援教育の充実】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新庄養護学校高等部就労コース、米沢養護学校西置賜地域の分校（中・高）の整備：H29.4月</li> <li>・合理的配慮等の理解向上を図る研修会の実施</li> <li>・特別支援教育に係る相談・支援体制の充実</li> <li>・高等学校への特別支援教育支援員の配置</li> <li>・特別支援学校への就職支援コーディネーターの配置</li> </ul>	<p>○特別支援学校における特別支援学校教諭免許状保有率：80%（H27 78.8%）</p> <p>○公立幼・小・中・高における「個別の指導計画」の作成率（該当者無しをの学校を除く）：99.0%（H27：98.7%）</p>	<p>テーマ1－施策2－主要事業（1）－③「特別な支援を必要とする子どもへの指導・支援体制の整備」</p> <p>テーマ2－施策3－主要事業（1）－②「学齢期における教育・療育の充実」</p> <p>テーマ2－施策3－主要事業（1）－③「就労支援の充実」</p>
6	魅力にあふれ、安心・元気な学校づくりを推進する	<p><b>【信頼される学校づくりの推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム学校による相談体制の充実強化</li> <li>・教育マイスターの配置・OJT研修</li> <li>・通学路安全対策アドバイザーの派遣</li> <li>・山形工業高等学校の校舎・体育館の改築</li> </ul> <p><b>【教職員健康管理事業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員のメンタルヘルス対策の推進及び健康診断実施後の精密検査受診率向上対策の推進</li> </ul> <p><b>【時代の進展に対応した学校づくりの推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東桜学館中学校・高等学校の整備（グラウンド整備）</li> </ul>	<p>○いじめの認知件数に占める、いじめが解消しているものの割合（公立小・中・県立高・特支）：95%（H27：91.2%）【再掲】</p> <p>○教職員の健康診断時における要精密検査該当者の精密検査受診率：94.0%以上（H27:92.2%）</p>	<p>テーマ1－施策2－主要事業（1）－①「多様性を活かし可能性を引き出す教育の推進」</p> <p>テーマ1－施策2－主要事業（1）－②「教育を取り巻く課題に対応できる教員の養成」</p> <p>テーマ1－施策2－主要事業（4）－②「社会全体で子どもを育てる気運の醸成」</p> <p>テーマ2－施策5－主要事業（1）－①「県民の体感治安の向上に向けた取組みの強化」</p>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校への探究科等新学科導入に向けた周知</li> <li>・高等学校へのコミュニティ・スクール設置に向けた検討</li> </ul>		<p>テーマ2－施策5－主要事業（1）－②「交通安全の推進」</p> <p>テーマ1－施策1－主要事業（3）－④「子育てにやさしいまちづくり」</p> <p>テーマ6－施策2－主要事業（2）－②災害時にも効果を発揮できる道路の整備</p>
7	郷土に誇りを持ち、地域とつながる心を育成する	<p><b>【郷土愛を育む教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中・高生による地域のよさや魅力を発信するコンテストの実施</li> </ul> <p><b>【山形の宝の保存活用・継承】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「未来に伝える山形の宝」の登録の推進、登録の取組みへの支援</li> <li>・県立博物館での企画展の実施</li> <li>・国及び県指定文化財の保存修理等への支援</li> <li>・日本一さくらんぼ祭りでのふるさと芸能のつどいの実施</li> </ul>	<p>○地域の伝統・文化行事に参加している児童生徒の割合：小6 86.2% (H27：84.9%) 中3 62.8% (H27：60.3%) <b>【創】</b></p> <p>○「ふるさと塾」の活動に賛同して伝承活動をする団体数：292 団体 (H27：289 団体)</p> <p>○「未来に伝える山形の宝」登録制度による新規登録件数：4 件 (H26：3 件)</p>	<p>テーマ1－施策2－主要事業（2）－②「豊かな心と健やかな体の育成」</p> <p>-----</p> <p><b>基本目標4－（1）－①</b> 子どもたちによる郷土芸能活動を支援し、地域の伝統・文化を継承</p> <p>テーマ1－施策3－主要事業（3）－①「若者の地域への理解促進」</p> <p>-----</p> <p><b>基本目標4－（1）－①</b> 子どもたちによる郷土芸能活動を支援し、地域の伝統・文化を継承</p> <p>テーマ1－施策5－主要事業（1）－②「文化の伝承活動の促進」</p> <p>-----</p> <p><b>基本目標4－（1）－①</b> 子どもたちによる郷土芸能活動を支援し、地域の伝統・文化を継承</p> <p>テーマ5－施策2－主要事業（2）－①「自然環境との共生の促進」</p>
8	学校と家庭・地域が協働し支え合う仕組みを構築する	<p><b>【学校と家庭・地域との連携・協働の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校支援地域本部・放課後子ども教室・家庭教育等の市町村補助金統合による事業の一体的な推進</li> <li>・連携協働サポートチームによる市町村の</li> </ul>	<p>○「放課後子ども教室」開設市町村数：35 市町村 (H27:33 市町村)</p> <p>○学校支援地域本部事業実施済市町村数：29 市町村 (H27:27 市町村)</p>	<p>テーマ1－施策2－主要事業（4）－①「家庭や地域の教育力の向上」</p> <p>テーマ1－施策2－主要事業（4）－②「社会全体で子どもを育てる気運の醸成」</p>

		<p>取組み支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の習慣等を学ぶ親子体験塾の実施</li> <li>・地域未来塾でのICT活用への支援</li> </ul>		<p>基本目標4-(3)-② 地域の拠点づくりと多様な地域づくり活動の促進</p>
9	<p>活力あるコミュニティ形成に向け、地域の教育力を高める</p>	<p><b>【青少年の地域力発揮】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中・高生を対象としたYYボランティアセミナーの実施</li> <li>・青年と次代のリーダーとなる高校生との地域課題の解決に向けたワークショップの実施</li> </ul> <p><b>【地域の教育力を高める生涯学習環境の充実】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県民が集い・学ぶ県立図書館の大規模改修に伴う基本設計及び実施設計の実施</li> <li>・県立図書館の賑わい創出の仕掛けづくり等の検討</li> </ul>	<p>○高校生のうち、ボランティア活動に参加した生徒の割合 : 85% (H27: 83.4%)</p> <p>○地域活動に取り組む青年グループ数 : 35 市町村 70 グループ (H27: 33 市町村 82 グループ) <b>【創】</b></p>	<p>テーマ1-施策2-主要事業(4)-①「家庭や地域の教育力の向上」</p> <p>テーマ1-施策2-主要事業(4)-②「社会全体で子どもを育てる気運の醸成」</p> <p>基本目標4-(3)-② 地域の拠点づくりと多様な地域づくり活動の促進</p> <p>テーマ1-施策3-主要事業(3)-②「若者の地域活動促進」</p> <p>基本目標4-(1)-③ 高校生・大学生等の地域を学ぶ活動への参加を促進</p>
10	<p>県民に元気と活力を与えるスポーツを推進する</p>	<p><b>【生涯スポーツの推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合型地域スポーツクラブの組織力強化セミナーの実施</li> </ul> <p><b>【競技スポーツの推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県スポーツ振興基金の設置</li> <li>・ドリームキッズの発掘・育成・レベルアップ</li> <li>・スポーツ医・科学による選手強化指導の充実</li> <li>・全国中学校体育大会(スキー)の開催</li> <li>・全国大会や国際大会等で活躍する選手の育成</li> <li>・核となる選手及び女性アスリートに対する支援</li> <li>・平成29年度全国高等学校総合体育大会(南東北インターハイ)に向けた開催準備</li> </ul>	<p>○総合型地域スポーツクラブの会員数 : 増加させる (H27: 21,834人) <b>【創】</b></p> <p>○国民体育大会天皇杯順位 : 20位台 (H27: 36位)</p> <p>○インターハイ入賞数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季40以上 (H27: 35)</li> <li>・冬季10以上 (H27: 20)</li> </ul>	<p>テーマ1-施策5-主要事業(2)-①「スポーツに親しむ活動の推進」</p> <p>基本目標4-(1)-② 芸術文化団体等による子どもの頃から伝統・文化・スポーツに触れる機会を拡大</p> <p>テーマ1-施策5-主要事業(2)-②「スポーツ競技力の向上」</p> <p>基本目標4-(1)-② 芸術文化団体等による子どもの頃から伝統・文化・スポーツに触れる機会を拡大</p>

		教育庁（義務、高校、スポ保）
施策番号	重点施策の名称	重点施策の目標
1	「いのちの教育」を大切にし、生命をつなぐ教育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「自分には良いところがある」と思う児童・生徒の割合（全国学力・学習状況調査から） <ul style="list-style-type: none"> <li>・小6：82%（H27：79.2%）</li> <li>・中3：75%（H27：72.2%）</li> </ul> </li> <li>○将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査から） <ul style="list-style-type: none"> <li>・小6：90%（H27：87.6%）</li> <li>・中3：77%（H27：72.9%）</li> </ul> </li> <li>○不登校児童生徒の割合（県独自調査） <ul style="list-style-type: none"> <li>：0.88%（H26：0.97%）※H28.10月確定予定</li> </ul> </li> <li>○いじめの認知件数に占める、いじめが解消しているものの割合（公立小・中・県立高・特支）：95%（H27：91.2%）</li> </ul>

施策の短期APにおける位置付け	総合戦略における位置づけ
テーマ1－施策2－主要事業（1）－①「多様性を活かし可能性を引き出す教育の推進」	
テーマ1－施策2－主要事業（1）－②「教育を取り巻く教員の育成」	
テーマ1－施策2－主要事業（2）－①「自他の生命や存在を尊重できる教育の充実」	
テーマ1－施策2－主要事業（2）－②「豊かな心と健やかな体の育成」	
テーマ1－施策2－主要事業（4）－②「社会全体で子どもを育てる気運の醸成」	
テーマ2－施策1－主要事業（2）－④「こころの健康づくりの推進」	
平成27年度までの主な取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「いのちの教育」の深化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「山形県人権教育推進方針」を策定</li> <li>・さんさん「いのち」の絵本巡回展</li> <li>・生命の大切さを学ぶ教育プログラムの活用</li> <li>・山形県道徳読み物資料集の活用</li> </ul> </li> <li>○「いじめ・非行をなくそう」やまがた県民運動」と連携したいじめのない学校づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル地区による取組みと成果の普及啓発</li> <li>・各教育事務所における「いじめ解決支援チームの設置」</li> <li>・「山形県いじめ防止基本方針」に基づく効性のある取組、評価・改善</li> </ul> </li> <li>○不登校児童生徒数の減少を目指した相談活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラーや各種相談員等の配置・派遣による生徒指導體制の充実、24時間体制の電話相談の実施</li> </ul> </li> <li>○信頼される学校づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ問題連絡協議会の設置</li> <li>・学校における「いじめ防止基本方針」の着実な実行に係る取組</li> <li>・「いじめ防止・対策支援プログラム」の普及・啓発</li> </ul> </li> </ul>

- 不登校児童生徒の減少を目指した相談活動の充実
  - ・スクールカウンセラーなどの配置・派遣による生徒指導体制の充実、24 時間体制の電話相談の実施
- 体罰根絶運動への取組み
  - ・運動部活動統括責任者及び外部指導者対象の研修会の開催、全県校長会の開催

### 施策の評価と今後の推進方向等

#### 〔評価・課題等〕

- ・「山形県人権教育推進方針」を策定し、県内への発信を行うことができた。
- ・「絵本の巡回展」及び『『生き方』につなぐ推薦図書巡回展』において各学校で工夫した取組みが行われたり、山形県道徳読み物資料集を活用した実践が行われたりするなど、いのちの教育の充実が図られている。
- ・「いじめのない学校づくり推進事業」におけるモデル地区を中心に、児童生徒が主体となった取組みや地域の特色を活かしたが取組みが積極的に展開されてきている。
- ・県統一形式のアンケートの実施、研修会の実施、スーパーバイザーの派遣等により、これまで認知されなかったいじめについても組織的にまた丁寧に対応されるようになってきている。
- ・小・中学校における長期欠席児童生徒の割合は全国的にも非常に少ない状況である。平成 27 年度は 2 期（12 月末）現在、前年同期と比べ、不登校児童生徒数は全国的な傾向と同様増加となった。
- ・県 P T A 連合会と連携し、ネットいじめへの保護者の意識の啓蒙を図ることができた。
- ・各学校における「いじめ防止基本方針」を着実に実行するとともに「いじめ防止・対策支援プログラム」の普及・啓発を図り、今後もしじめへ適切に対応することが求められる。
- ・家庭科の授業で、子どもを生き育てることの意義や、子どもの健やかな発達のための家族や社会の果たす役割等について、学習指導要領に則り授業を行っているが、少子高齢化が急速に進む時代を生きる高校生には、更に人口減少社会の現状への理解を深め、将来の展望を考えさせる必要がある。
- ・平成 25 年 6 月から全校あげて体罰根絶運動に取り組んでいるところであるが、依然、体罰が発生している。

#### 〔今後の推進方向等〕

- ・「山形県人権教育推進方針」に基づいて、学校・家庭・地域が連携した人権教育を推進する。
- ・『『生き方』につなぐ推薦図書巡回展』を継続させ、自らの「生命」を大切にし、同時に他の人の「生命」と「生き方」をも尊重するいのちの教育を推進するとともに、人権教育の視点からもいのちの教育を充実させていく必要がある。
- ・いじめの認知がなかったり、発生率が極端に低かったりする学校については、必ずしも良好な状況とは捉えずに、積極的にいじめを認知し、組織的に対応するよう支援していく必要がある。
- ・県 P T A 連合会とも連携しながら、I C T 機器の利用に関する児童生徒・保護者への啓発を進め、ネットいじめをはじめとする生徒指導上の問題行動等への対応を継続していく。
- ・道徳教育を中心に、山形県人権教育推進方針の普及・啓発を図る。
- ・スクールカウンセラーの配置を継続するとともに、生徒指導を充実させる。さらに、外部専門家を活用したり関係機関との連携をはかりながら生徒指導上の問題に対して組織的に対応することができるよう支援する。
- ・高校生が生命継承の重要性を感じ、次代の親となった時の自身の在り方を考えさせる授業の指導事例を検討する。
- ・運動部活動における体罰根絶運動に加え、いじめ防止にも取り組んでいく。



<平成28年度 主な取組み内容>

- ・「生き方」につなぐ推薦図書巡回展の実施 (①)
- ・人権教育研究指定校事業及び道徳教育地域支援事業の実施と推進 (①)
- ・山形県人権教育推進方針の周知・普及 (①)
- ・いじめのない学校づくりの推進(モデル地区による取組の普及啓発) (②)
- ・地区いじめ防止連絡協議会の実施 (②)
- ・公立小中学校及び県立学校へのスーパーバイザー派遣による相談組織への支援 (②)
- ・スクールカウンセラー等の配置・派遣による生徒指導体制の充実、24時間体制の電話相談、「いじめ防止・支援対策プログラム」の普及・啓発 (②)
- ・いじめ防止・体罰根絶運動の一層の推進 (③)
- ・教職員の不祥事防止に向けた有識者からの意見聴取、新たな取組みの検討 (④)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
①	人権教育研究指定校事業・道徳教育地域支援事業の実施と推進			
	山形県人権教育推進方針の周知・普及			
	「生き方」につなぐ推薦図書の巡回			
②	いじめのない学校づくりの推進(モデル地区による取組みの普及啓発)			
	地区いじめ防止連絡協議会の実施			
	公立小中学校のスーパーバイザー派遣による相談組織への支援			
	スクールカウンセラーの配置・派遣			
	24時間いじめ電話相談ダイヤルの実施			
	いじめ防止・支援対策プログラムの普及・啓発			
③	各学校における「ガイドライン」に基づく指導の実践【義、高】			
	スポーツ指導者への研修の実施(いじめ防止・体罰の根絶)【ス】			
④	教職員の不祥事防止に向けた有識者からの意見の聴取		意見聴取を受けた新たな取組みの検討【関係課】	

		教育庁（文化財・生涯、義務、スポ保）
施策番号	重点施策の名称	重点施策の目標
2	豊かな心と健やかな体を育成する	<p>○家庭教育講座等を実施している市町村数：35市町村（H27：32市町村）</p> <p>○幼稚園・保育所等と教員同士の合同研修を実施した小学校の割合80%（H27：79.2%）</p> <p>○毎日朝食を摂っている児童生徒の割合：小・中それぞれ増加させる（H27小6：91.0%、H27中3：87.5%）</p> <p>○新体力テストで、「50m走」「ボール投げ」を重点項目として、全国平均より劣る項目数：小・中・高 合計26項目以下（H27：29項目）</p> <p>○運動をしない児童生徒の割合：小・中・高 10%以下（H27：11.3%）</p>

施策の短期A Pにおける位置付け	総合戦略における位置づけ
テーマ1－施策2－主要事業（2）－②「豊かな心と健やかな体の育成」	
テーマ1－施策2－主要事業（3）－①「主体的に学び課題を解決する力」	
テーマ1－施策2－主要事業（4）－③「食育県民運動の展開強化」	
テーマ1－施策2－主要事業（4）－①「家庭や地域の教育力の向上」	
テーマ1－施策2－主要事業（4）－②「社会全体で子どもを育てる気運の醸成」	
テーマ1－施策5－主要事業（1）－②「文化の伝承活動の推進」	
テーマ2－施策1－主要事業（2）－②「望ましい食生活の定着に向けた取組みの強化」	
平成27年度までの主な取組み状況	<p>○親に対する学習機会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「やまがた子育て講座」の実施（各市町村：H22～）</li> <li>・事業所等への「家庭教育出前講座」の実施</li> </ul> <p>○幼児共育を推進する体制の整備・実践活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児共育アクションプログラムを策定（H21.4）</li> <li>・「ふれあい活動プログラム」開発を実施（H22、H23）</li> <li>・「幼児共育ふれあい広場」の実施（各市町村：H24～）</li> </ul> <p>○幼保小のそれぞれの教育に対する理解の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保小の日常的な交流や研修会（幼保小連携推進協議会の開催、幼保小連携推進事業の実施、幼保小合同研修会の実施）</li> </ul> <p>○読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県読書活動推進協議会の開催</li> <li>・山形県「やまがた教育の日『読育』フェスティバル」の開催</li> </ul>

- 学校における実践的な食育の推進
  - ・学校食育推進会議や学校食育フォーラム等の開催
  - ・モデル校における栄養教諭を中心とした学校・家庭・地域が連携・協力した食育の実践
- スポーツ指導者の養成・確保とスポーツ環境の整備
  - ・子どもの体力向上支援委員会（コンソーシアム）の設置
  - ・教員の指導力向上及び体育授業、体育的行事への外部指導者の派遣
  - ・「楽しく体を動かそう！」DVDを活用した授業づくり講習会及び「1学校1取組み」の推進
  - ・総合型地域スポーツクラブとの連携による放課後子ども運動教室やスポーツイベントの開催
  - ・小中高の体育担当者を招集した体力向上対策会議の開催

### 施策の評価と今後の推進方向等

#### 〔評価・課題等〕

- ・家庭教育に関する共通の課題を有する多くの市町村等と連携した「やまがた子育て講座」や「幼児共育ふれあい広場」等の開催により、多くの親に対して家庭教育に係る学びの場に参加できる機会を提供できるようになった。今後さらに、県内全域への普及と継続的な実施、子どもの発達段階に応じた内容の充実が必要である。
- ・「幼保小連携スタートプログラム」に基づいた幼保小の連携の在り方について研究する実施地区を設け、子どもたちが滑らかに小学校生活に接続できるよう取り組んでいる。
- ・「やまがた教育の日『読育』フェスティバル」の開催をはじめとする取組は、学校・家庭・地域が一体となった読育を推進するためのネットワーク構築の効果があつた。
- ・食育の推進については、学校・家庭・地域が一体となって取り組み、朝食摂取率は年々増加傾向にある。子どもの朝食摂取を含む「食育」の重要性について、学校・家庭・地域に対して一層普及啓発していく必要がある。
- ・本県の体力の水準は、昭和60年頃と比較すると未だに低い水準にあるが、新体力テストを実施した平成11年からは緩やかな向上傾向が見られる。全国との比較においては、高校女子で上回る項目数が多いものの、中学校男子ではほとんどの項目で下回った。また、ほとんどの学年にも共通して劣る傾向の項目も見られる。

#### 〔今後の推進方向等〕

- ・親に対する家庭教育等に関する学習機会を提供する「やまがた子育て講座」及び「幼児共育ふれあい広場」の開催を市町村と連携して推進するとともに、公民館等を拠点とした子育てなどに関する相談体制を整備する。さらに、乳幼児期からの絵本の読み聞かせの普及啓発を図り、家庭における読育（どくいく）を推進する。
- ・幼保小連携においては、地域全体で連携を行う地区を中心にその取組みをまとめ、各小学校や幼稚園・保育所に普及していく必要がある。
- ・探究型学習の視点を幼稚園・保育所・小学校で共有し、幼保小連携の取組について、さらに検討する必要がある。
- ・第3次山形県子ども読書活動推進計画を策定し、着実に読書活動が推進されるよう市町村を支援していく。
- ・栄養教諭等を中心とした食育の実践活動などを通して、朝食摂取の重要性をはじめとした食育をさらに推進していく。
- ・子どもの体力向上支援委員会（コンソーシアム）の事業として、外部指導者の派遣や、教員の資質向上を図ることで、子どもの体力向上を目指す。

<平成28年度 主な取組み内容>

- ・家庭教育の推進 (①)
- ・幼児共育及び家庭における読育の推進 (②)
- ・「生き方」につなぐ推薦図書巡回展 (③)
- ・読育に係る企画 (③)
- ・山形県子ども読書活動推進計画策定委員会による計画の策定 (③)
- ・栄養教諭等を中心とした食育の実践活動、専門家派遣やプロスポーツチームの協力による食育推進事業の実施 (④)
- ・小・中学校の体育授業や放課後子ども運動教室等への外部指導者の派遣、「楽しく体を動かそう！」DVDの活用を図る小学校教員を対象とした講習会の開催、体力向上対策会議の開催 (⑤)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
①	第1回 推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やまがた子育て講座</li> <li>・家庭教育出前講座</li> <li>・家庭教育支援フォーラム</li> <li>・見守りによる家庭学習習慣づくり</li> <li>・家庭学習習慣づくり親子体験塾</li> </ul>		第2回 推進協議会
②		<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児共育ふれあい広場</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・読育推進ネットワーク</li> <li>・読育推進連携講座</li> </ul>		
③	「生き方」につなぐ推薦図書を活用した地域との連携による読育の推進			
			読育に係る企画	
	山形県子ども読書活動推進計画の策定			
④	栄養教諭等を中心とした食育の実践活動の実施			
	専門家派遣等による食育推進事業の実施			
⑤	体育授業等や放課後子ども運動教室等へ外部指導者を派遣			
	小学校教員対象の体育授業づくり講習会（DVD活用）の開催			
	放課後子ども運動教室やスポーツイベントの開催			
				体力向上対策会議

		教育庁（義務、高校）
施策番号	重点施策の名称	重点施策の目標
3	社会を生きぬく基盤となる確かな学力を育成する	<p>○全国学力・学習状況調査における正答率が、全国平均以上（全国学力・学習状況調査から）：全科目 （H27：全国平均以上の科目数：5/10科目）</p> <p>○医学部医学科、難関大学の合格者数 ：160人（H28.3：107人）〔創〕</p>

施策の短期APにおける位置付け	総合戦略における位置づけ
テーマ1－施策2－主要事業（1）－①「多様性を活かし可能性を引き出す教育の推進」	基本目標1－（4）－①「世界で通用する高い専門性や知識を有した人材を育成・確保」
テーマ1－施策2－主要事業（1）－②「教育を取り巻く課題に対応できる教員の育成」	
テーマ1－施策2－主要事業（3）－①「主体的に学び課題を解決する力」	基本目標1－（4）－①「世界で通用する高い専門性や知識を有した人材を育成・確保」
テーマ2－施策1－主要事業（1）－①「医療従事者の確保・定着に向けた取組みの強化」	基本目標1－（4）－②「県内産業が求める人材を育成・確保」
テーマ3－施策5－主要事業（1）－②「産業の発展を支える人材の確保」	基本目標1－（4）－②「県内産業が求める人材を育成・確保」
平成27年度までの主な取組み状況	<p>○少人数学級のよさを活かした授業改善と学級経営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「さんさん」ガイドの作成、ホームページへの掲載</li> <li>・「やまがたの子どものまなびを考えるフォーラム」の開催</li> <li>・学校訪問や諸調査による各学校の状況把握</li> <li>・担任力育成推進</li> <li>・「さんさんプラン」再構築会議の開催</li> </ul> <p>○確かな学力の育成に係る取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校・市町村のアクション・プラン作成によるPDCAサイクルの構築</li> <li>・探究型学習推進プロジェクト事業及び山形県学力等調査（試行）</li> <li>・学力向上プロジェクト会議の開催</li> </ul> <p>○山形の未来を担う人材育成のための学力向上と教員の指導力向上を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進学指導重点校による学力向上推進事業の実施、難関大・医進セミナーの実施、「算数・数学チャレンジinやまがた」の実施、数学及び英語指導力向上セミナーの実施</li> </ul>

## 施策の評価と今後の推進方向等

### 〔評価・課題等〕

- ・少人数学級編製の周知徹底を図るとともに、算数の授業改善に焦点化した重点教科充実制を継続して実施した。また、アクション・プランをもとに学力調査に係る市町村・学校での活用・公表・説明を行うよう働きかけることで、学力向上に向けた意識は高まってきている。
- ・「思考力を高める問題の開発・発信・活用」や「モデル授業の開発・発信」により、全国学力・学習状況調査における正答率については、改善傾向が見られるが、児童生徒の教科に対する興味関心や学習に対する主体的な態度については一層の向上が望まれる。
- ・探究型学習推進プロジェクト事業及び山形県学力等調査（試行）により、探究型学習についての教員の意識を高めることができた。
- ・高い志と広い視野をもって将来の本県をリードする人材育成事業を実施した。その結果、「探究型学習」を進めるSSH指定校を中心に難関大AO入試等で成果が上がったが、全体的な学力向上という点では課題が残った。
- ・大学入試改革に対応できる「汎用的な学力」「課題解決能力」等を育成するための研究及び授業改善が必要である。

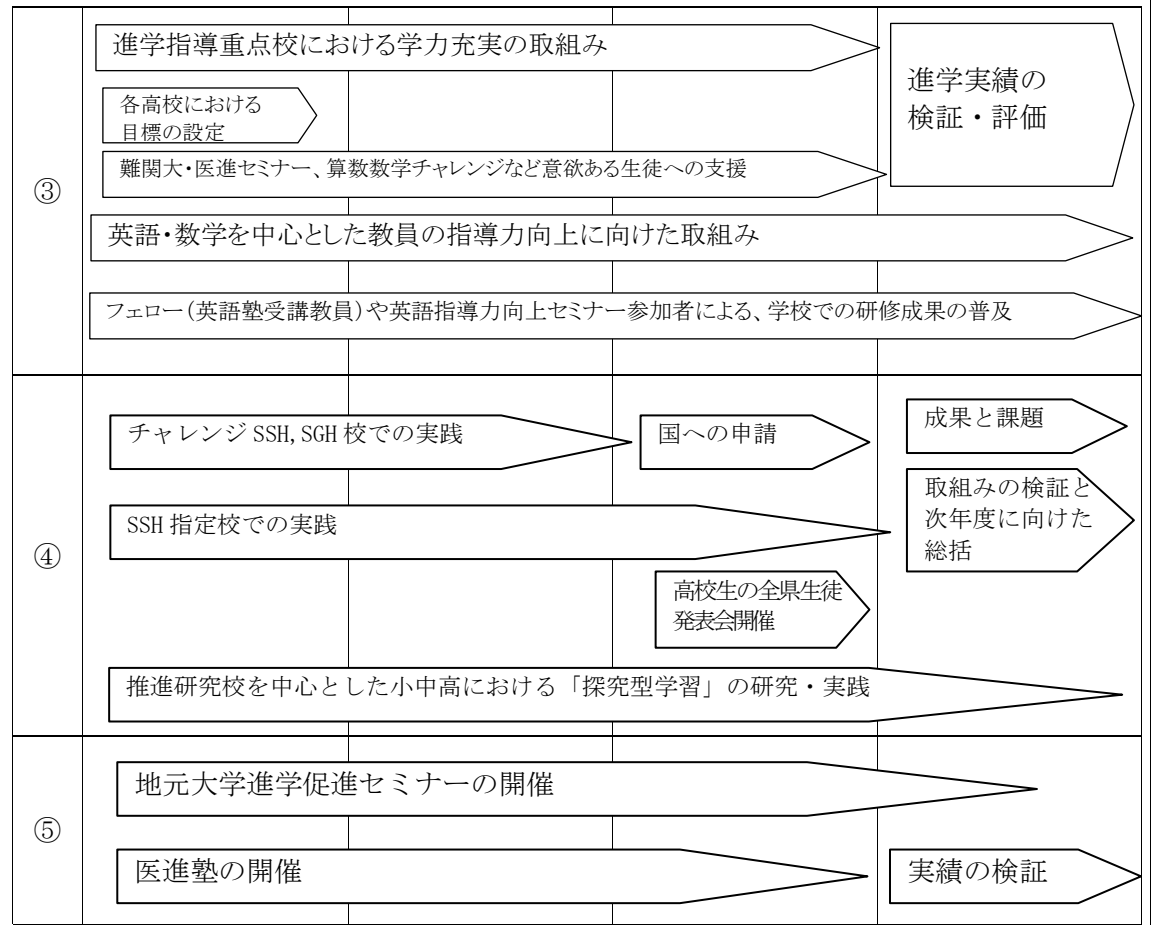
### 〔今後の推進方向等〕

- ・「さんさんプラン」再構築会議において、少人数学級編製の客観的かつ専門的な評価を継続するとともに、喫緊の課題に対応する施策（低学年副担任制、別室学習指導教員、特別支援学級の少人数学級編制）のねらいを周知徹底し、個に応じたきめ細かな教育の充実を図る。
- ・小中高を通し、知識・技能の「習得」とそれらの「活用」を基盤として、児童生徒の「探究」する力を育成していくための授業づくりの研究・実践を推進するとともに、山形県学力等調査を実施し、確かな学力の育成を図る。また、グローバル化に対応した新たな英語教育を見据え、「英語を用いたコミュニケーション能力」の更なる育成を図る。
- ・「山形の未来をひらく教育推進事業」の各事業を有機的に関連させながら実施し、上位層の学力向上を図る。
- ・「探究型プロジェクト」推進協力校の実践をもとに、小中高において「探究型学習」を研究・実践し、その成果を全県に広める。
- ・地域の産業を支える人材を育成するため、地元大学への進学を促進する取組みを実施する。

### 〔平成28年度の主な取組み内容〕

- ・少人数学級編制による指導の充実、小学校算数に焦点化した重点教科充実制の実施 (①)
- ・訪問指導及び授業改善・教育事務所によるワーキンググループ会議の開催 (①)
- ・「さんさんプラン」再構築会議による効果検証の実施 (①)
- ・学力向上プロジェクト会議の開催 (①)
- ・全県指導主事による「共通重点」指導（小中学校） (②)
- ・学力向上と教員の指導力向上の取組み (③)〔創〕
- ・科学や英語を中心とした探究型活動の取組み・成果の普及 (④)〔創〕
- ・若者の県内定着を促進するための県内大学進学促進セミナー、医進塾の実施 (⑤)〔創〕

	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期
①	少人数学級編制による指導の充実、小学校算数に焦点化した重点教科充実制の実施			
	訪問指導及び授業改善・教育事務所によるワーキンググループ会議の開催			
	「さんさんプラン」再構築会議による効果検証の実施			
		学力向上プロジェクト会議		学力向上プロジェクト会議
②	全県指導主事による「共通重点」指導（小中学校）			



		教育庁（義務、高校、総務課（施設））
施策番号	重点施策の名称	重点施策の目標
4	変化に対応し、社会で自立できる力を育成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○英検 3 級以上程度の英語力のある中学生の割合 ： 43%（H27：29.4%）</li> <li>○英検準 2 級から 2 級程度以上の英語力のある高校生の割合 ： 43%（H27：38.1%）〔創〕</li> <li>○県内就職を希望している高校生の県内就職内定率 ： 100.0%（H28.3：99.4%）</li> <li>○高校生の県内就職率（県内就職内定者数／全就職内定者数） ： 80%（H28.3：77.4%）</li> </ul>

施策の短期 A P における位置付け		総合戦略における位置づけ
テーマ 1－施策 1－主要事業（3）－⑤「子育て家庭等に対する経済的支援の充実」		
テーマ 1－施策 2－主要事業（3）－②「職業観、勤労観の育成」		基本目標 1－（4）－②「県内産業が求める人材を育成・確保」
テーマ 1－施策 2－主要事業（3）－③「時代にふさわしい能力を身につける教育の充実」		基本目標 1－（4）－①「世界で通用する高い専門性や知識を有した人材を育成・確保」
テーマ 1－施策 2－主要事業（4）－①「家庭や地域の教育力の向上」		
テーマ 1－施策 3－主要事業（2）－①「就業意欲・能力の向上と機会の確保」		
テーマ 3－施策 1－主要事業（2）－⑤「本県の将来を担う人材の育成と研究者の研究意欲の向上」		基本目標 1－（4）－②「県内産業が求める人材を育成・確保」
テーマ 3－施策 5－主要事業（1）－②「産業の発展を支える人材の育成の確保」		基本目標 1－（4）－②「県内産業が求める人材を育成・確保」
平成 27 年度までの主な取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グローバル化に対応する力の育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語活動フォローアップ事業</li> <li>・小中高大連携プログラム事業</li> <li>・山形「スピーク・アウト」推進事業の実施、英語集中合宿の実施、英語教員指導力向上事業の実施</li> </ul> </li> <li>○職業観・勤労観の育成と未来の山形を担う人材教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業観や勤労観を身につけ、産業発展や国際的な視野を持つ子どもの育成に向けたキャリア教育の推進</li> </ul> </li> <li>○老朽化した産業教育振興設備の更新</li> </ul>	



## 施策の評価と今後の推進方向等

### 〔評価・課題等〕

- ・外国語活動フォローアップ事業により、外部人材と担任が英語授業の指導方針を共有することで、授業の充実が図られた。
- ・小中高大連携プログラム事業により、対象地区である鶴岡市において、小中高の系統性を重視し、次期学習指導要領を見越した先駆的取組みを推進することができた。
- ・児童生徒は、英語を用いたコミュニケーション活動になれてきているが、身につけた英語を使って表現するなど、英語を十分には活用できていない。
- ・山形「スピーク・アウト」推進事業や英語教員指導力向上事業を通じて、コミュニケーション重視の指導法の研究・実践は着実に進んでいる。しかし研究成果の普及という観点で見るとまだ不十分である。指導力の一層の向上が図られるよう、公開授業や研究発表会の充実を図っていく必要がある。
- ・将来の職業人・地域産業を担う人材の育成に必要な、老朽化した産業教育振興設備の計画的更新を図る必要がある。

### 〔今後の推進方向等〕

- ・フォローアップ事業により、郷土資料の開発・活用や教員の指導力の向上及び、小学校外国語活動の指導の一層の充実とともに、小中高の系統性を意識した指導が必要である。
- ・平成30年度導入予定の小学校における「英語教科化」を見据え、鶴岡市をモデル地区とした「小中高大連携プログラム事業」を実施し、小学校における英語指導のあり方、10年間を見通した指導と評価の研究及び郷土のよさを英語で発信する取組みを継続する。
- ・産業教育振興設備の計画的更新を図る。

<平成28年度 主な取組み内容>

(小学校)

- 外部人材を活用した英語でのコミュニケーション能力を高める外国語活動の実施・成果の普及 (1) [創]

(小中高大連携)

- 小中高大連携プログラム事業 (2)(3)(4)(5)
- 次期学習指導要領を先取りした小学3・4年生での外国語活動の実施 (2)
- 小中高における教員の授業参観や乗入授業の実施 (3)
- 小中高合同による児童生徒の英語キャンプの実施 (4) [創]
- 海外から中高生を招いての英語キャンプの実施 (4) [創]
- 郷土を発信する観光案内等(英語版)の作成 (5) [創]
- 日常的なキャリア教育の推進と、本県の産業界を担う生徒の意欲の向上、就職を希望する生徒全員の内定に向けた支援、指導 (6)
- 産業教育振興設備の更新 (7)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
①	小学校への非常勤講師の配置		中間報告	実績報告
②	小学校3・4年生における外国語活動型各1コマの実施 小学校5年生における外国語活動型2コマの実施 小学校6年生における「教科型」2コマの実施 運営指導アドバイザーによる指導・助言			検証
③	小小、小中、小高、中高での授業参観		小中、中高、小高でのチーム・ティーチングによる乗入授業の実施	小中高を通じた指導の評価・検証
④	小中高合同英語キャンプの計画、準備	小中高合同英語キャンプの実施	英語キャンプの成果検証・評価	英語キャンプの実施
⑤	郷土教材の調査、開発	英語キャンプでの模擬観光案内の実施	観光案内(英語版)等、郷土を発信する成果物の作成	
⑥	各高等学校におけるキャリア教育の推進(キャリア教育総合実践プログラムの実施)			
	高校生就職支援(求人開拓・定着率向上、事後指導、就職指導連絡会議等)			
	山形のスペシャリストに聞くトップセミナー、インターンシップ推進事業の実施			
	山形未来の産業人材キャリアサポート事業、担い手プロジェクト事業			
⑦	産業教育振興設備の更新			

		教育庁（特別支援教育室、総務課学校施設担当）
施策番号	重点施策の名称	重点施策の目標
5	特別なニーズに対応した教育を推進する	<p>○特別支援学校における特別支援学校教諭免許状保有率：80%（H27:78.8%）</p> <p>○公立幼・小・中・高における「個別の指導計画」の作成率（該当者無しの学校を除く）：99.0%（H27：98.7%）</p>

施策の短期APにおける位置付け	総合戦略における位置付け
テーマ1－施策2－主要事業（1）－③「特別な支援を必要とする子どもへの指導・支援体制の整備」	
テーマ2－施策3－主要事業（1）－②「学齢期における教育・療育の充実」	
テーマ2－施策3－主要事業（1）－③「就労支援の充実」	
平成27年度までの主な取組み状況	<p>○活力あふれる特別支援学校づくりの推進の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の実態や地域性に合わせた特色ある取組みの実践</li> </ul> <p>○「山形県特別支援学校再編・整備計画」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障がい特別支援学校の校舎増築と5分校（山形、天童、寒河江、大江、長井）の設置</li> </ul> <p>○「第2次山形県特別支援教育推進プラン」の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育フォーラムなど、特別支援教育推進プランの周知・啓発の取組</li> </ul> <p>○特別支援教育体制の充実・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「県立高等学校特別支援教育推進事業」による県立高等学校への特別支援教育支援員の配置</li> <li>・相談活動、専門性を高める各種研修会の実施等による特別支援教育の体制整備</li> </ul>

#### 施策の評価と今後の推進方向等

##### 〔評価と課題〕

- ・各特別支援学校の課題解決に向け「地域との絆づくり」を基本テーマとして特色のある教育活動を実践した。
- ・村山特別支援学校校舎及び楯岡特別支援学校体育館等の増築工事が終了し、平成27年8月から使用を開始した。平成28年度は、それぞれのグラウンドを整備することとなった。
- ・楯岡特別支援学校の校舎増築と5分校の開校により、教室不足解消と遠距離通学の負担軽減が図られた。
- ・平成26年9月から国の補助事業を活用し、県立高等学校に特別支援教育支援員の配置を増やしたことにより、教育的ニーズに応じた支援の充実を図ることができた。更に特別支援学校のセンター的機能を活用しながら、教職員の専門性向上に向けた取組みが必要である。
- ・特別支援教育フォーラムを村山・庄内の2地区で開催し、「第2次山形県特別支援教育推進プラン」の周知及びインクルーシブ教育システムの考え方を踏まえた特別支援教育への理解・啓発を図ることができた。

【今後の推進方向等】

- ・「第2次山形県特別支援教育推進プラン」にもとづき、医療・保健・福祉等と連携し早期からの支援体制を整備するとともに、小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実を図る。
- ・知的障がい特別支援学校の教室不足と施設の狭隘化の解消、遠距離通学負担の軽減を図るため、引き続き再編・整備計画を推進し、教育環境の改善・向上を図る。

＜平成28年度 主な取組み内容＞

【特別支援教育の体制整備の推進】 (1)

- ・山形県特別支援連携協議会の開催等
- ・合理的配慮普及セミナーの開催
- ・特別支援教育フォーラムの開催（8月開催）
- ・LD、ADHD 通級指導教室の充実 (2)

【県立高等学校特別支援教育推進事業】

- ・高等学校における発達障がい等の特別な教育的支援を要する生徒に対する特別支援教育支援員の配置 (3)

【県立特別支援学校校舎整備等事業】

- ・新庄養護学校高等部就労コースの設置及び設置に向けた改修
- ・米沢養護学校長井校中学部及び西置賜校（仮）高等部の設置（H29.4月設置予定） (4)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
①	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">特別支援連携協議会の開催</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">合理的配慮普及セミナーの開催</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">特別支援教育フォーラムの開催（村山）</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">特別支援連携協議会の開催</div>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; width: 80%;">特別支援教育の体制整備の推進</div>			
②	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; width: 80%;">LD、ADHD 通級指導教室の充実</div>			<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">新設校への説明</div>
③	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">支援員配置</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">配置委員会 (追加配置の検討)</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">追加配置</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">次年度配置に向けた配置委員会</div>
④	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; width: 90%;">新庄養護学校高等部就労コース設置に向けた準備</div>			
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; width: 90%;">米沢養護学校長井校中学部及び西置賜校（仮）高等部設置に向けた準備</div>			

		教育庁（義務、高校、福利、スポ保、教職員室、総務課（施設））
施策番号	重点施策の名称	重点施策の目標
6	魅力にあふれ、安心・元気な学校づくりを推進する	○いじめの解消率（県独自調査による、公立小・中・高・特支合計）：95% （H27：91.2%）【再掲】 ○健康診断時における要精密検査該当者の精密検査受診率：94.0%以上（H27：92.2%）

施策の短期A Pにおける位置付け	総合戦略における位置付け
テーマ1－施策1－主要事業（3）－④「子育てにやさしいまちづくり」	
テーマ1－施策2－主要事業（1）－①「多様性を活かし可能性を引き出す教育の推進」	
テーマ1－施策2－主要事業（1）－②「教育を取り巻く教員の育成」	
テーマ1－施策2－主要事業（4）－②「社会全体で子どもを育てる気運の醸成」	
テーマ2－施策5－主要事業（1）－①「県民の体感治安の向上に向けた取組みの強化」	
テーマ2－施策5－主要事業（1）－②「交通安全の推進」	
テーマ6－施策2－主要事業（2）－②「災害時にも効果を発揮できる道路の整備」	
平成27年度までの主な取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○いじめのない学校づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめのない学校づくり推進事業</li> <li>・県統一アンケートの実施</li> </ul> </li> <li>○体罰根絶運動への取組み <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動部活動顧問及び外部指導者対象の研修会の開催、全県校長会の開催</li> </ul> </li> <li>○教職員のメンタルヘルス対策の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理監督者向けメンタルヘルスセミナーの実施（新採校長研修、新採教頭研修、安全衛生管理者研修等）</li> <li>・メンタルヘルスアドバイザー派遣のPR活動実施</li> </ul> </li> <li>○健康診断実施後の精密検査受診率の向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の受診率が低かった学校への訪問や各種会議等による受診勧奨依頼等を実施</li> </ul> </li> <li>○学校の安全・安心を図る取組みの推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学校安全指導員による学校等の巡回指導、学校安全ボランティアの資質向上のための講習会等の開催</li> <li>・各小学校通学路の安全点検による危険箇所の報告を受け、関係機関合同による点検及び対策案の作成を行い、各機関で安全対策を実施し、事業の報告と効果の検証</li> </ul> </li> <li>○平成28年4月開校に向けた東桜学館中学・高等学校の校舎・体育館の整備及び平成28年8月の使用開始に向けた山形工業高等学校の校舎改築を計画的に推進</li> <li>○公立学校施設の耐震化等の推進及び再生可能エネルギーの導入</li> <li>○県立学校における新たな学科の設置の検討</li> </ul>

## 施策の評価と今後の推進方向等

### 〔評価・課題等〕

- ・「いじめのない学校づくり推進事業」におけるモデル地区を中心に、児童生徒が主体となった取り組みや地域の特色を活かした取り組みが積極的に展開されてきている。
- ・県統一形式のアンケートの実施、研修会の実施、スーパーバイザーの派遣等により、これまで認知されなかったいじめについても組織的にまた丁寧に対応されるようになってきている。
- ・平成 25 年 6 月から全校あげて体罰根絶運動に取り組んでいるところであるが、依然、体罰が発生している。
- ・管理監督者のメンタルヘルスに対する意識は定着してきており、平成 27 年度も 100%の受講率を達成することができたが、新任の管理監督者に対しては今後も 100%の受講率を維持すべく取り組む必要がある。また、平成 26 年度から実施のメンタルヘルスアドバイザー派遣事業についてはまだ利用実績が少ないため、更なる周知が必要である。
- ・健康診断時における要精密検査該当者の精密検査受診率については、大きく向上したものの、全員受診までには至っていない。
- ・各市町村教育委員会学校安全担当者と地域学校安全指導員との連絡協議会を年 3 回開催するとともに、教育事務所ごとに学校安全ボランティア養成講習会を開催し、学校安全の充実や学校安全ボランティアの資質向上に努めた。継続して地域ぐるみで児童生徒を見守る体制の強化が必要である。
- ・各小学校通学路の安全点検による危険箇所の報告を受け、関係機関合同による点検及び対策案の作成を行い、各機関で安全対策を実施し、事業の報告と効果の検証を行った。
- ・公立学校施設について、耐震化及び天井落下防止対策の完了に向けた対策工事の計画的な推進が必要である。
- ・県立学校施設には、建築後 30 年から 40 年経過している建物が多く、老朽化対策が必要となる。
- ・平成 28 年 4 月開校に向けた東桜学館中学校・高等学校校舎等の整備は予定通りに完了した。引き続きグラウンドの整備を計画的に推進していく
- ・平成 28 年 8 月使用開始に向けた山形工業高等学校校舎等の計画的な改築整備を進めるとともに、引き続き、校舎解体及び体育館改築等の計画的な推進が必要である。
- ・高校再編整備が当初予定した 55 学級減に対し、45 学級減に留まった。
- ・「活力あふれる高校づくり推進事業」等を通して、学校や地域の特色を活かした教育活動を充実させたことに対し、学校評議員から高い評価を得ている。今後、少子化に伴い生徒数が減少する中で、生徒・保護者や地域社会のニーズに対応するとともに、各学校の活力を維持するための方策が必要である。

### 〔今後の推進方向等〕

- ・いじめの認知がなかったり、発生率が極端に低かったりする学校については、必ずしも良好な状況とは捉えずに、積極的にいじめを認知し、組織的に対応するよう支援していく必要がある。
- ・県 P T A 連合会とも連携しながら、I C T 機器の利用に関する児童生徒・保護者への啓蒙を進め、ネットいじめをはじめとする生徒指導上の問題行動等に対応していく必要がある。
- ・引き続き、体罰根絶運動に取り組んでいく。
- ・教職員のメンタルヘルス対策については、引き続き関係機関と連携し、新任の管理監督者を対象としたセミナーを実施するなどして、全員受講に向けた取り組みを推進していくとともに、メンタルヘルスアドバイザー派遣事業について更なる周知に努めていく。
- ・教職員等の精密検査受診率の向上については、引き続き受診率が低い学校へ訪問するとともに各種会議・広報媒体を通じて、精密検査の重要性について周知するなど精密検査受診に向けた意識づけを進め、全員受診につなげていく。
- ・県内児童生徒のより一層の安全・安心を確保するため、地域学校安全指導員等の資質向上や巡回指導を継続していく。
- ・児童生徒の通学路における安全を確保するため、県土整備部、県警察本部、山形河川国道事務所、市町村教育委員会等と連携し、通学路交通安全プログラムを継続的に推進する。プログラムにおいて学校及び教育委員会が対策を実施することとなる箇所については、全ての対策を確実に実施する。

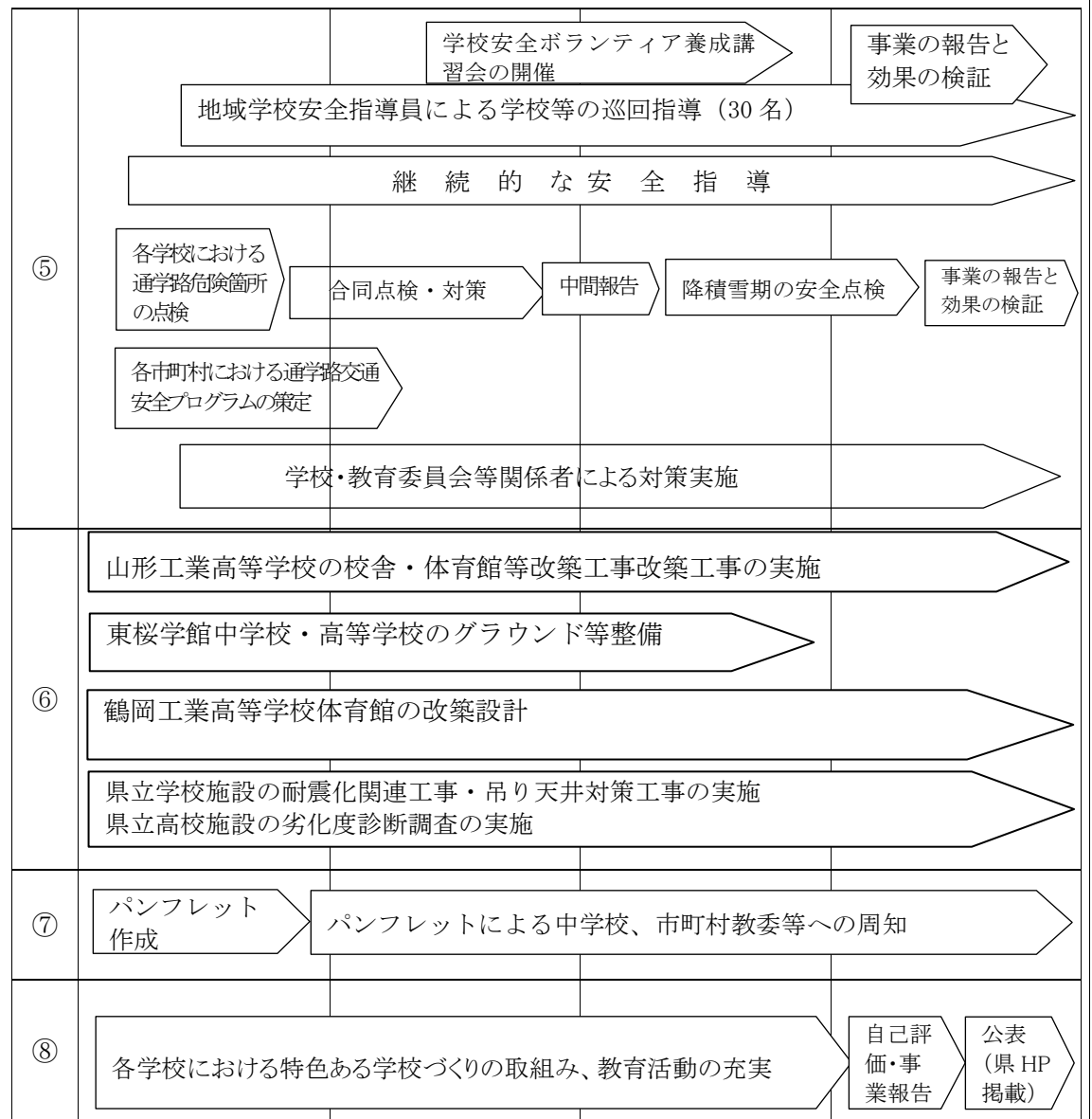
- ・平成 28 年 4 月に開校した東桜学館中学校・高等学校グラウンドの整備を進める。
- ・平成 28 年 8 月使用開始予定の山形工業高等学校校舎改築整備について工期内完了に向けて進めるとともに、引き続き、校舎解体及び体育館改築等を計画的進める。
- ・県立学校の老朽化の対策として、学校施設の個別施設計画を策定し、次に各施設における中長期保全計画を作成する。これに基づいて従来の事後保全型から予防保全型の維持管理に取り組んでいく。
- ・公立小中学校施設について、災害時の緊急避難場所として重要な役割を果たすため、耐震化と屋内運動場等の天井落下防止対策の完了に向け、必要な情報提供や助言を行うとともに、統合等の問題からやむを得ず平成 27 年度末までに耐震化が完了しなかった施設に対する財政支援措置の継続を国に働きかけていく。
- ・県立高校再編整備基本計画に沿って時代の進展に対応した新しい学校づくりに取り組み、教育の質的な向上と学校の活力の保持を図る。
- ・「活力あふれる高校づくり推進事業」(H25～)のこれまでの活動を評価・検証し、学校や地域の特色を活かした教育活動の更なる充実を図る。

<平成28年度 主な取組み内容>

- ・いじめのない学校づくりの推進（モデル地区による取組の普及啓発）【再掲】 (①)
- ・地区いじめ防止連絡協議会の実施【再掲】 (①)
- ・公立小中学校及び県立学校へのスーパーバイザー派遣による相談組織への支援【再掲】 (①)
- ・体罰根絶運動の一層の推進【再掲】 (②)
- ・教職員の不祥事防止に向けた有識者からの意見聴取、新たな取組みの検討【再掲】 (③)
- ・管理監督者向けメンタルヘルスセミナーの実施、メンタルヘルスアドバイザーの派遣・周知及び精密検査受診率向上に向けた勧奨活動の実施 (④)
- ・地域学校安全指導員等の資質向上と巡回指導の実施 (⑤)
- ・学校、教育委員会、道路管理者、警察などの関係者による各市町村における通学路交通安全プログラムに基づく対策の実施 (⑤)
- ・県立学校施設の整備等 (⑥)
- ・探究科及び探究コース紹介パンフレットの作成及び中学校等関係者への周知 (⑦)
- ・各学校の特色ある教育活動の充実と活力あふれる主体的な学校づくりの推進 (⑧)

	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期
①	いじめのない学校づくりの推進(モデル地区による取組みの普及啓発)			
		地区いじめ防止連絡協議会の実施		
	公立小中学校及び県立学校へのスーパーバイザー派遣による相談組織への支援			
②	各学校における「ガイドライン」に基づく指導の実践【義、高】			
	スポーツ指導者への研修の実施（体罰の根絶）【ス】			
③	教職員の不祥事防止に向けた有識者からの意見の聴取		意見聴取を受けた新たな取組みの検討【教 関係課】	
④	新採校長向けセミナー開催(1回)		新採教頭向けセミナー開催(1回)	
	新採以外校長・教頭向けセミナー開催(2回)			
	メンタルヘルスアドバイザーの派遣・周知			
	各所属・職員向け受診の勧奨(広報誌発行等)	各所属・職員向け受診の勧奨(訪問・広報誌発行等)		各所属向け受診勧奨(受診状況取りまとめ)





		教育庁（総務、文化財・生涯）
施策番号	重点施策の名称	重点施策の目標
7	郷土に誇りを持ち、地域とつながる心を育成する	<p>○地域の伝統・文化行事に参加している児童生徒の割合 ：小6 86.2% (H27：84.9%) 中3 62.8% (H27：60.3%) [創]</p> <p>○ふるさと塾活動賛同団体：292 団体 (H27：289 団体)</p> <p>○「未来に伝える山形の宝」新規登録件数：4 件 (H27：3 件)</p>

施策の短期APにおける位置付け	総合戦略における位置付け
テーマ1－施策2－主要事業(2)－②「豊かな心と健やかな体の育成」	基本目標4－(1)－①「子どもたちによる郷土芸能活動を支援し、地域の伝統・文化を継承」
テーマ1－施策3－主要事業(3)－①「若者の地域への理解促進」	基本目標4－(1)－①「子どもたちによる郷土芸能活動を支援し、地域の伝統・文化を継承」
テーマ1－施策5－主要事業(1)－②「文化の伝承活動の推進」	基本目標4－(1)－①「子どもたちによる郷土芸能活動を支援し、地域の伝統・文化を継承」
テーマ5－施策2－主要事業(2)－①「自然環境との共生の促進」	
平成27年度までの主な取組み状況	<p>○郷土愛を育む中学校版地域教材「郷土Yamagata」の作成</p> <p>○「未来に伝える山形の宝」登録制度の普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登録制度(H25～)及び支援制度の創設(H26～)</li> <li>・公式ガイドブック作成(H26)、リーフレットの作成及び配布(H26～)</li> <li>・「未来に伝える山形の宝」巡回パネル展の開催(H26～)</li> </ul> <p>○地域の民俗芸能など文化伝承活動の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと塾伝承活動への支援(H17～26)、フェスティバルの開催(H20～25)</li> <li>・県民俗芸能懇話会の開催及び地域別民俗芸能懇話会の支援(H23～26)</li> <li>・ふるさと芸能(民俗芸能)のつどいの開催(H24～)</li> </ul> <p>○山形の宝である文化財等の保存活用及び普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「未来に伝える山形の宝」ポータルサイト開設による情報発信(H26～)</li> <li>・未来に伝える山形の宝シンポジウムの開催(H27)</li> <li>・指定文化財及び地域のシンボルとなる文化財の保存修理等への支援(H20～26)</li> <li>・「縄文の女神」の常設展示開始、解説動画作成、レプリカによる巡回展示等の実施(H25～26)</li> <li>・最上川の文化的資産50選の選定普及、重要文化的景観の選定支援(H21～)</li> <li>・「日本遺産」認定に向けた取組みの推進(H26～)</li> </ul>

## 施策の評価と今後の推進方向等

### 〔評価・課題等〕

- ・郷土愛を育む副読本「郷土 Yamagata」を作成し、全中学校・高等学校及び中・高等部のある特別支援学校に配付した。
- ・文化財の維持管理や修繕に係る経費が所有者にとって大きな負担となっていることや、地域の民俗芸能にあっては、後継者不足が懸念されている。
- ・県民等に対し、身近な文化財の価値や守り・育てていくことの有用性について一層の意識付けを行い、文化財の保存伝承を図るとともに郷土に対する誇りと愛着を育み、地域活性化や観光交流の拡大につなげていく必要がある。

### 〔今後の推進方向等〕

- ・中・高校生による郷土愛を育む副読本「郷土 Yamagata」の活用や地域活動等の成果を募集し、優れた取組みを公開発表していくコンテストを行うことにより、自分の住む地域の自然や文化、歴史、偉人などのふるさとのよさを発見・再確認する機会とし、郷土に対する愛着や誇りを育てていく。
- ・申請団体と関係機関との連携充実を支援することで、「未来に伝える山形の宝」登録制度により地域にのこる文化財を「知り」「守り」「活かす」活動や情報発信を支援し、地域に対する誇りと愛着を育み、地域活性化や観光交流の拡大につなげていく。
- ・地域の民俗芸能の伝承活動に対する支援を引き続き行っていく。
- ・県立博物館では「縄文の女神」の常設展示のほか、プライム企画展「いにしえ「よみがえる 古の大寺院「ほうどうじ寶幢寺」至宝展」等を開催し、県内外に山形の魅力を伝え、「山形を知るスタートライン」として観光交流につなげていく。また、小・中学校で使用する副読本で博物館や縄文の女神を紹介するページを掲載する。

<平成28年度 主な取組み内容>

- ・郷土Yamagata ふるさと探究コンテストの実施 (①) [創]
- ・「未来に伝える山形の宝」登録制度の推進 (②) [創]
- ・地域の民俗芸能など文化伝承活動の推進 (③) [創]
- ・山形の宝となる文化財の周知と活 (④) [創]

	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期
①	郷土Yamagataの周知・活用			
	委託業者の選定	コンテスト募集	一次審査	最終審査 記録集等作成・配付
②	「未来に伝える山形の宝」登録取組みに対する補助制度による支援			
	「未来に伝える山形の宝」募集			
		審査・登録		
	「未来に伝える山形の宝」巡回パネル展等による情報発信			
③	ふるさと芸能のつどいの開催		北海道・東北ブロック民俗芸能大会への参加	
	県民俗芸能懇話会の開催			県民俗芸能懇話会の開催
	地域別芸能懇話会の支援及びふるさと塾伝承活動への支援			
	やまがた社会貢献基金等を活用した地域の伝統文化の保存及び伝承活動等への支援			
④	「未来に伝える山形の宝」ポータルサイトによる情報発信			
	文化財の保存修理等への支援			
	「縄文の女神」の常設展示(通年)、出前講座及び解説会の開催			
			県立博物館プライム企画展の開催	
	最上川流域の文化的景観にかかる市町村の支援			
	日本遺産認定に係る取組み			

		教育庁（文化財・生涯）
施策番号	重点施策の名称	重点施策の目標
8	学校と家庭・地域が協働し支え合う仕組みを構築する	○放課後子ども教室開設市町村数：35 市町村（H27：33 市町村） ○学校支援地域本部実施済市町村数：29 市町村（H27：27 市町村）

施策の短期APにおける位置付け	総合戦略における位置付け
テーマ1－施策2－主要事業（4）－①「家庭や地域の教育力の向上」	
テーマ1－施策2－主要事業（4）－②「社会全体で子どもを育てる気運の醸成」	基本目標4－（3）－②「地域の拠点づくりと多様な地域づくり活動の促進」
平成27年度までの主な取り組み状況	○放課後子ども教室・学校支援地域本部関係者の資質向上 ・研修会（コーディネーター、教育活動推進員、教育活動サポーター等）の実施 ○「学校支援体制の在り方に関する調査研究」による市町村実態調査とモデル開発（H25・26）

**施策の評価と今後の推進方向等**

**〔評価・課題等〕**

- ・放課後や週末において、子どもたちの健やかな成長を育む居場所づくりの気運の醸成が図られている。コーディネーターや指導者等を対象とした研修会の内容を充実させることができたが、各市町村の放課後子ども総合プラン運営委員会、学区ごとの協議会等の組織を有効に機能させ、活動プログラムの検証を定期的に行っていく必要がある。
- ・県内4地区における優れた「学校支援モデル」の普及により、各学校支援地域本部の支援内容の充実が図られており、今後も各市町村における継続的な学校支援体制を確立させていく必要がある。

**〔今後の推進方向等〕**

- ・引き続き、放課後子ども教室と放課後児童クラブのより一層の連携を図るとともに、放課後子ども教室事業の趣旨に即した開設日数及び開催日、活動プログラム等について各市町村に助言を行いながら、子どもの安心・安全な居場所づくりのための環境整備を行っていく。
- ・地域の実情に応じて学校支援地域本部の設置を推進するとともに、家庭教育支援組織等との事業間連携の在り方について調査研究を行いながら、家庭と地域とが一体となった新たな支援の仕組みづくりを推進していく。

**<平成28年度 主な取り組み内容>**

- ・研修会の実施（県） (①)
- ・放課後子ども教室の実施（各市町村） (②)
- ・学校支援地域本部の設置（各市町村） (③)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
①	研修会(コーディネーター、指導者等)の実施			
②	放課後子ども教室の実施			
③	学校支援地域本部の設置			

## 教育庁（生涯学習振興室）

施策番号	重点施策の名称	重点施策の目標
9	活力あるコミュニティ形成に向け、地域の教育力を高める	○高校生のうちボランティア活動に参加した生徒の割合：88%（H27：83.4%） ○地域活動に取り組む青年グループの数： 35市町村70グループ（H27：33市町村82グループ）〔創〕

施策の短期APにおける位置付け		総合戦略における位置付け
テーマ1－施策2－主要事業（4）－①「家庭や地域の教育力の向上」		
テーマ1－施策2－主要事業（4）－②「社会全体で子どもを育てる気運の醸成」		基本目標4－（3）－②「地域の拠点づくりと多様な地域づくり活動の促進」
テーマ1－施策3－主要事業（3）－②「若者の地域活動の促進」		基本目標4－（1）－③「高校生・大学生等の地域を学ぶ活動への参加を促進」
平成27年度までの主な取り組み状況	○青少年ボランティア活動体験機会の充実 ・ボランティアセミナー、交流会（各地区2回程度） ・ボランティア体験会（夏・冬）の実施 ○放課後事業関係者の資質向上 ・研修会（コーディネーター、教育活動推進員、教育活動サポーター等）の実施（H19～） ○県内青年の仲間づくりと、地域活動の実践力向上による青年リーダーの育成 ・地域貢献青年育成セミナー（全県1回）、学びあい地域活性化推進プロジェクト（各地区1企画）の実施	
施策の評価と今後の推進方向等		
<b>〔評価・課題等〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「季節ごとの体験ボランティア」の企画が全市町村で実施され、青少年がボランティア活動を体験する機会が拡大した。一層の拡大を図り、中・高校生が体験しやすい環境を充実させる必要がある。出前講座の実施により、ボランティアに関する意識の醸成が進んでいる。</li> <li>・YYボランティアサークルの運営に関して、指導技術の継承や会員募集に係る困難を抱えるケースが多くなっている。</li> <li>・青年会議が企画運営した地域貢献青年育成セミナーは高校生の参加を得て、世代間をつなぐ良い機会となった。平成26年まで青年交流事業で企画運営されてきた「山形あつまりEXPO」は若者支援・男女共同参画課の補助金を得て自立することができた。</li> </ul>		
<b>〔今後の推進方向等〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア体験機会の拡充と学校への出前講座等により青少年ボランティア活動を一層推進していく。また、青少年ボランティア活動者の交流機会や研修機会をさらに充実させることにより、YYボランティアサークルの支援に努めるとともに中学生ボランティアリーダーの育成を図る。</li> <li>・地域で活動している若者（青年・大学生等）と高校生がともに地域課題について考える学びの機会をつくる。これにより、高校生が卒業後スムーズに地域で活動できるようにし、地域活動が持続可能なものになるよう図る。</li> </ul>		

〔平成28年度の主な取組み内容〕

- ・地域青少年ボランティア推進会議の開催、ボランティアビューローの設置、YYボランティアの集いの開催 等。(①)
- ・高校生ワークショップの実施、高校生ワークショップを企画運営するための実行委員会を開催 等。(②)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
①	ボランティアビューローの設置(ボランティア活動・体験会情報等の収集・発信)			
	夏の体験ボランティア	YYボランティアセミナーの開催(4地区)		冬の体験ボランティア
	推進会議(県・4地区)			推進会議(県・4地区)
②	実行委員会(県・4地区)		高校生ワークショップ	県実行委員会

		教育庁 (スポーツ保健課)
施策番号	重点施策の名称	重点施策の目標
10	県民に元気と活力を与えるスポーツを推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○総合型地域スポーツクラブの会員数：増加させる (H27:21,834人) [創]</li> <li>○国民体育大会天皇杯順位：20位台 (H27:36位)</li> <li>○全国高等学校総合体育大会入賞数 <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季 40以上 (H27:35)</li> <li>・冬季 10以上 (H27:20)</li> </ul> </li> </ul>

施策の短期APにおける位置付け		総合戦略における位置付け
テーマ1-施策5-主要事業(2)-①「スポーツに親しむ活動の推進」		基本目標4-(1)-②「芸術文化団体等による子どもの頃から芸術・文化・スポーツに触れる機会を拡大」
テーマ1-施策5-主要事業(2)-②「スポーツ競技力の向上」		基本目標4-(1)-②「芸術文化団体等による子どもの頃から芸術・文化・スポーツに触れる機会を拡大」
平成27年度までの主な取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域のスポーツ環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ・レクリエーション祭の開催により県民のスポーツに親しむ機運を醸成</li> <li>・「県総合型地域スポーツクラブ育成支援プラン」のもと、広くスポーツ関係団体や行政機関等と連携・協働し、総合型地域スポーツクラブの育成及び活動を支援</li> <li>・総合型地域スポーツクラブの組織力強化のための「フォローアップセミナー」の開催</li> </ul> </li> <li>○スポーツ競技力向上の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・国体等に向けた強化計画に基づく年間を通じた強化事業の実施</li> <li>・スポーツタレント発掘事業に係るドリームキッズの育成と7期生の選考及び東京五輪出場の可能性が高いキッズの育成</li> <li>・平成29年度全国高等学校総合体育大会に向けたジュニア選手の強化及び医科学支援事業による選手、指導者のレベル向上</li> </ul> </li> <li>○平成29年度全国高等学校総合体育大会の開催準備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・県実行委員会の設置</li> <li>・本県における競技日程・競技会場を決定</li> </ul> </li> </ul>	
施策の評価と今後の推進方向等		
<p>〔評価・課題等〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「県スポーツ・レクリエーション祭」を実施し、2,500名を越える多くの県民の参加を得て開催することができた。</li> <li>・「総合型地域スポーツクラブ育成支援プラン」の推進により、介護予防や放課後子ども教室等の事業とクラブの役割（公益性）について相互理解が進み各市町村においてクラブと他部門との繋がりや、クラブを地域資源として活用しようという動きが広まった。</li> </ul>		



- ・クラブの安定経営を支援するため、経営コンサルタントや会計士等の専門家を招き「フォローアップセミナー」を県内4箇所で開催し、新たな会員確保につながるマーケティングや広報手法を学ぶことができた。
- ・競技スポーツ強化について、年間を通して強化事業を実施できた。しかし、国体においては、団体競技で得点を伸ばす事ができず、2年続けて天皇杯順位の目標を達成することができなかった。平成29年度全国高等学校総合体育大会を契機とした少年の部のレベルアップと成年の部の更なる強化を図る必要がある。スポーツタレント発掘事業については、育成プログラムを展開する中で、適性の高い競技種目の選択に向けた情報提供及び競技団体との連携による活動環境の拡大が図られた。修了生が高校に進学していくことから、今後は高体連、各競技団体と情報を共有しながら選手のさらなる躍進に結びつくよう協力していく必要がある。
- ・第71回国体冬季大会において、冬季男女総合成績3位（昨年10位）と、スピードスケート競技の活躍により過去最高の順位となり、秋の本大会に繋いだ。
- ・スキー競技においては10位という結果となり、今後競技力向上へ向けた新たな取り組みを進めていく必要がある。
- ・平成29年度全国高等学校総合体育大会について、県、高体連、会場地市町、競技団体等関係機関で構成する県実行委員会を立ち上げ、6つの専門部会（総務・広報、競技、式典、宿泊・医事衛生、輸送・警備・防災、高校生活動）を設置・運営し、関係機関と連携しながら開催準備を進めた。

#### 【今後の推進方向等】

- ・引き続きスポーツ・レクリエーション祭を開催し、県民のスポーツに親しむ機運の醸成を図る。
- ・総合型地域スポーツクラブの公益性の向上について、関係団体や行政の他部門との相互連携による効果的な事業展開を図る。
- ・組織力強化のためのフォローアップセミナーを引き続き実施し、クラブの安定経営に向けて支援する。
- ・国体での天皇杯得点獲得に確実に結び付けられるように、新たに競技力重点事業を加え年間を通じた強化事業を展開する。平成29年度全国高等学校総合体育大会へ向けジュニア選手の強化及び高体連と連携した事業を展開し、全国トップ、さらには国際レベルの大会で活躍する選手の育成を目指す。選手、指導者の競技力向上をサポートする新たな医科学支援体制の整備を目指す。スポーツタレント発掘事業においては、競技種目の選択に向けた適性評価プログラムの充実を図り、修了後も世界を目指した取り組みが継続できるよう関係機関と協力していく。
- ・平成29年度全国高等学校総合体育大会について、会場地市町や関係機関と連携し、総合開会式及び競技種目別大会の開催準備を進めるとともに、高校生活動等による大会の機運醸成を図っていく。

<平成28年度 主な取組み内容>

- ・ 総合型地域スポーツクラブの組織力強化セミナーの実施 (①) [創]
- ・ クラブへの助言を行うアドバイザーの配置 (①) [創]
- ・ 国民体育大会等に向けた年間を通じた強化事業実施 (②)
- ・ 世界で活躍する選手の発掘と育成を目指しジュニア期からトップレベルまで競技力向上を図る事業の実施 (②③)
- ・ スポーツ医・科学支援事業の実施及び支援体制の構築 (③)
- ・ 平成29年度全国高等学校総合体育大会の開催準備 (④)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
①			総合型クラブフォローアップセミナー	
	広域スポーツセンタークラブアドバイザーによる総合型クラブ訪問の実施			
②		各競技団体による強化事業の実施		国体終了後のオフシーズンの強化
			核となる選手及び女性アスリートに対する支援	
	実行委員会	ドリームキッズの育成		
		募集	選考(30名程度)	
			オリンピックチャレンジ事業 U15 の実施	
③		スポーツ医・科学支援事業の実施及び支援体制構築		
		ジュニア選手強化事業(H29全国高等学校総合体育大会出場選手強化及びジュニア層の強化)		
④	実行委員会	全国高等学校総合体育大会の開催準備		